

バレンタインデーに告白する女性の減少要因の解明

菊地あゆみ

「バレンタインデー」といえば、「女性が愛する男性にチョコレートを送る日」と日本では定着してきた。データによると、恋人はもちろん、好意を寄せる男性へチョコレートなどの贈り物をしてきた。また、そのような片思いの男性へ告白をする人も多かった。

しかし、近年、好意を寄せる男性へバレンタインデーに告白をする女性が減少してきている。すぐに思い浮かぶのは、多くの菓子メーカーのバレンタインデー商戦戦略である「友チョコ」や「自分チョコ」などが影響しているのではないかということである。しかし、実際はどのようなことがこの現象に影響を与えているのだろうか。

本レポートは、バレンタインデーに告白する女性が減少した要因を解明することが目的である。二次データなどから仮説を立て、独自の質問紙調査結果や新たな二次データなどを基に要因解明にあたる。今回4つ仮説を立てることができた。

- 1)バレンタインデーの意味合いが定着しすぎて敬遠されるようになった。
- 2)告白ツールの多様化により、あえてバレンタインデーにチョコレートを贈り、告白することをしなくなった。
- 3)大切なのは好意を寄せる男性へ贈るチョコレートではない。
- 4)告白の失敗によって一日中落ち込んだ日として過ごすよりも、友人や家族と一つのイベントとして楽しみたいという人が増えている(バレンタインデーの意味合い自体変化してきている)。

また、解明をしたのち、一年間研究を進めていく中で得たバレンタインデーに関する知識面を「豆知識」として記述すると共に未来のバレンタインデーの在り方を示す。